

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
国語	授業に意欲的に取り組む態度をはぐくみ、基礎学力の定着を図る。	授業に意欲的に取り組んでいることを評価するために、ノートや課題集の点検を適切に行う。	B	【達成状況】 ・単元や定期考査、長期休暇ごとにノートや課題を点検するなどして、生徒の授業態度を向上させ関心・意欲・態度を評価した。 ・スピーチを実施し、生徒の話す・聞く力を向上させ、人前で話すことに慣れることができた。 ・創造的な言語活動として、短歌の創作と連歌の創作を行い、小野小町文学賞や酒折連歌賞（山梨学院大主催）に応募し、数人の生徒が入賞した。 ・漢字検定を6月と10月の2回実施し、準2級12名、3級25名が合格した。 【次年度の課題】 ・生徒の実態をよく見極めて、生徒の実際の生活に活かせる基礎学力が身につくような授業内容を模索する。 ・例年短歌や俳句の創作を行い、小野小町文学賞等に応募しているが、添削を含めてもっとじっくり取り組む時間をもちたい。 ・漢字検定受検者の増加と合格率の向上を目指す。
		家庭学習の習慣化を図るために、定期考査や長期休業中に課題を出す。	C	
	様々な言語活動を通して、場に応じた適切な表現力を身につける。	スピーチや話し合いを行うことで、適切に話す力と聞く力を身につけ、コミュニケーション能力の向上を図る。	B	
		俳句や短歌の創作を通して感性を磨き表現力を高め、手紙やレポートを書くことを通して場に応じて適切に書く力を身につける。	C	
漢字検定受験者に対し、合格を目指した対策を行う。	宿題を課したり課外授業を実施するなどし、受験者の増加と合格率の向上を目指す。	B		
社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。	B	【達成状況】 ○様々な資料を活用し、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。○授業内容の確認プリントや時事プリントを活用したり、ノート点検をこまめに実施したりして、授業への集中・基礎学力の定着をはかるよう努めた。○アクティブラーニングなど対話を中心とする授業実践をおこなった。 【次年度の課題】 ○アクティブラーニングなどの指導法の充実をはかることが課題である。
		発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。	C	
	教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の習得に努める。	A	
数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの例題を通し、体験的に理解できるように工夫する。	B	【達成状況】 ○中学校の基本事項の復習から、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。○中学校の内容の確認プリントを活用したり、課題をこまめに実施したりして、授業への集中・基礎学力の定着をはかるよう努めた。 ○質問応答をまめにおこなった。 【次年度の課題】 ○基礎基本の事項を十分に習熟させることが引き続きの課題である。
		課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。	B	
		各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。	B	
理科	基礎的な学習の向上を図る。	生徒とのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外を実施する。	B	【達成状況】 ○授業の毎時間、質問を投げかけ、数名の生徒に答えてもらう時間を設けている。慣れてくれば、自然に答えが口に出せるようになってきた。机間巡視を行いながら、適切に声かけをするよう心がけ、生徒から答えを引き出すことができた。 ○授業の中で、考査問題の中に身近な理科現象を取り上げ、授業で学んだことがらと関連づけて説明させたり、現象が起こる理由を考えたりする活動を行った。 【次年度の課題】 ○年度初めに実験の計画をたて、実験室の整備を行ってきたが、実験器具・薬品などがまだ不足している。次年度以降も限られた予算内で少しずつ整備を進める予定である。
	科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力を身につける。	日常生活にあふれる理科現象や身近な物質を取りあげ、科学全般に対して関心を持たせる。	B	
	物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、教室内の授業以外に実験室や屋外を利用して実験・実習を行う。	B	
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体作り運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	C	【達成状況】 体育 ○体力テストA及びBの割合は47.4%と目標の50%には届かなかったが、昨年の41.5%から6%上昇した。 ○補習等を行い、目標を概ね達成することができた。 ○授業において単元の時数を見直し、クラスマッチ種目を練習する時間を確保できた。意識付けや意欲の向上につながったと考える。 ○実技研修として指導の仕方など適宜話し合いや共通理解を図った。 保健 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。生徒の興味を引き、具体的に内容を理解し、思考・判断することに繋がったと感じる。 【次年度の課題】 ○体力テストのA及びBの割合の向上を目指して、生徒の実態に合った体力を高める運動などの充実や生徒の意識を高めていきたい。 ○ルールの周知や練習時期の検討など、特活とより連携しながら学校行事の成功と運動への意欲の向上を図る。
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率90%以上を目指す。	C	
	体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	A	
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	B	
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B	
英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力強化を目指す。	B	【達成状況】 ・基礎学力強化のため、単語の小テスト、本文内容に関するチェック、ワークブックを活用した確認など各教員が工夫して行っている。 ・全商英検については、夏休みに1・2級の課外、12月に3級の課外を実施した。1年生3級の合格率は61.5%。2級は全学年で3名、1級は4名が合格した。 ・パフォーマンステストの実施については学年によってばらつきがある。ペアワークやグループワークなどについては積極的に実施し、互いに教え合う様子が見られた。 【次年度の課題】 ・全商英検3級合格者を増やせるような対策をする。 ・パフォーマンステストは長期計画を立てて引き続き実施したい。 ・中学校との接続や、リスニング・スピーキング能力を一層高めることが課題である。
		課題や学習ノート提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。	B	
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。	B	
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声教材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。 ペアワーク・グループワーク・パフォーマンステスト等を実施し、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。	B	
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。	B	【達成状況】 ○学習ノート等の提出物は単元ごとや実習終了後に点検し、未提出がないよう指導することができた。 ○きゅうりの半月切りの実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○調理実習を通して、生徒は意欲的に取り組み、コミュニケーションが深まり、協調性や自主性を養い、生活の向上を図るための基礎的な技能を身につけさせることができた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善向上に取り組もうとする姿が見られるようになった。 【次年度の課題】 ○進度の遅れが生じないように、指導内容を検討し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図りたい。
		プリント・ワークの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B	
		実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。	A	
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	B	
商業	学力の向上を図る。	学力向上のために日々の授業を大切にし、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。	B	○「学力の向上を図る。」の目標において、上級資格合格へ向けてのアプローチの仕方に一層の工夫が必要であると感じる。今年度は資格取得に偏った授業ではなく、ICT教育や生徒指導の視点を生かした授業やアクティブラーニングを取り入れた授業などを多く行った。 ○「商業教育の広報活動に努める。」の目標については、十分にその効果が浸透していると実感することが多々あった。中学校の先生方には鬼怒商の出前授業は好評であるとよく耳にするので、今後も継続して多くの中学生に商業の魅力を伝えていきたい。本年度実践した地元商工会議所・結城市役所との連携の継続。 ○ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身に付けさせるための指導は各科目の特性を生かして行われている。 【次年度の課題】 ○さらなる指導力向上のための工夫改善を行って、授業の充実を図りたい。 ○地域との連携をさらに深めるための活動や出前授業の内容の充実を図りたい。
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。	B	
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解を深めるために体験入学や出前授業を実施する。	A	
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。	B	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教務	生徒の学力向上を図る。	授業を工夫改善し、主体的・対話的で自ら考え学ぶことによる、分かる授業を展開させる。	B	【達成状況】 ○授業改善に向けて、学力向上推進委員会を組織し、研究リーダーを中心に校内研修会・校内授業観察・近隣小中学校の授業視察・校外の研修会への参加等、様々な取組みを実施してきた。その結果、教員の授業に対する意識が向上し、生徒達が生き生きと授業に取り組む姿が見られた。学力が向上したという成果を出す段階にはまだ時間が掛かりそうである。 ○教育課程編成においては、昨年度の検討を踏まえ、今後の新教育課程に繋がる編成ができた。また、普段の授業において、ほとんど全ての教員がマナーを重視した指導が行い、その成果が出ている。 ○成績不振者に対して、教科レベルでは、放課後や長期休業中を利用した課外、オリジナルの補助教材を作成して課題を与えるなどの対応を行った。また、学年主導での成績不振者指導を実施した。 ○昨年度末に内規を見直し、今年度においても多くの先生から内規に関しての意見を出してもらった。年度反省において検討を加える予定である。 ○出張・年休時の振替は100%実施できた。また、チャイムで始まりチャイムで終わるという毎授業時間の確保は全ての教員が実行している。移動教室の際、生徒達は時間に遅れず移動することができ、授業時間を大切にしている意識が育っている。 【次年度への課題】 ○学力向上・授業力向上にむけての試みを実施してきたが、生徒の学力向上となって現れてくるには、来年度も検討を重ねながら、継続して実施していく必要がある。 ○学習意欲を向上させることが本校生には、最も必要なことであろう。生活習慣の改善や家庭教育の充実を抜きにしては、生徒の学習意欲は大きく向上することはない。他の校務分掌と連携して、生徒の学習意欲向上に努めたい。
	教育課程の編成に努める。	専門分野の知識やビジネス活動体験を通し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。	A	
	学習意欲の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と、補習や課外を計画的に行う。	A	
	内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。	B	
	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。	A	
	情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。	A	
	HPの適正な運営と、教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成と、それに沿ったコンテンツ委員会の活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。	B	
	道徳及び道徳プラスでの協働的学びを通し、課題の発見及び解決策を導く力を身に付けさせる。	生徒が自己有用感・達成感を味わえるような学習内容を展開する。	B	
生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	B	【達成状況】 ○挨拶に関しては立哨等で呼びかけている。呼びかけても返ってこない生徒もいた。 ○服装の段階的指導で生徒指導部長注意になった生徒が1名いた。頭髪指導に関しては、学年ごとに程度の差がありやり難い点があった。 ○遅刻の段階的指導で生徒指導部長注意になった生徒が2人いた。教室に8:35まで入室し、SHRを受けることができなかった遅刻になるという認識が薄い生徒・職員がいる。 ○予定された講話や講習会を実施し、集会等で交通事故に注意することを呼び掛けた。原付や自転車の事故が多かった。交通ルール、マナーに関する苦情が多かった。 ○計画的にカウンセリングが実施できた。カウンセリングの内容や今後の方針が詳細に報告された。 【次年度への課題】 ○特別指導における器物破損の取り扱いについて再検討する。 ○特別指導内規の前歴加算について再検討する。 ○生徒指導をきめ細かく行えば、教員側の負担が最終的には必ず軽くなる事を共通理解しながら粘り強く取り組んでいきたい。 ○カーディガンの色や形、職員トイレの生徒の利用、上履きのかかとふみ対策等の検討が必要ではないか。 ○昼食を教室外（特別棟廊下等）で床に直に座って食べている生徒の指導について。 ○スマホ・ケータイ安全教室を合格者説明会だけでなく、全校生徒対象での実施も検討する。各HRでも道徳などの時間を活用して、トラブルのないネット利用を確認する。
	服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。	B	
	遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。	B	
	交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。	B	
	問題行動を未然に防ぐ	全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。	A	
	教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。	A	
	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	A	
部活動加入率50%以上とし、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。	C		
部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。	部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。	A		
クラスマッチ、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。	A		
進路指導	キャリア指導の充実に努める。	生徒の個性に応じ、適切なキャリア教育を実施する。	B	【達成状況】 ○生徒の進路希望に即した進路ガイダンス等の行事・面接・課外指導が実施できた。 ○進路決定率は、100%を達成できた。 ○インターンシップは、37事業所において105名の生徒が参加し、貴重な学びの場となった。 ○求人対応や関係部署との連携などが良くなった。 【次年度への課題】 ○教員間の連携をより一層高められるようにしたい。 ○就職に関して、企業見学や選考のあり方がさらに良くなるための方策を模索したい。 ○進路情報の生徒へのより迅速な通知と周知徹底をはかりたい。 ○生徒個々に応じたよりきめ細やかな指導をはかりたい。
	進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談、またキャリアデザインに関する指導などを適宜積極的に行う。	B	
	教員間の連携をはかり、進路未決定者に対するきめ細やかな指導を行う。	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談、またキャリアデザインに関する指導などを適宜積極的に行う。	B	
	キャリアガイダンスの充実に努める。	企業訪問を行い、求人の確保及び開拓の推進、卒業生の動向把握に努める。	A	
	求人確保及び開拓に努める。	就業体験(インターンシップ)など様々な活動をととして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。	B	
環境整備	率先して清掃を行い、環境美化意識の向上を図る。	教室のワックスがけ、モップ交換を年4回実施し、教室の美化に努める意識、態度の育成を図る。	B	【達成状況】 ○教室のワックスがけやモップ交換は、事務、担任と連携しスムーズに実施できた。 【次年度への課題】 ○ごみの分別の徹底や中庭にごみやガムなどを捨てないように指導していきたい。 ○各トイレの洋式化を求めていきたい。
	各清掃区域の清掃を実施し、生徒の美化意識の向上を図り、教員と生徒の信頼関係を構築する。	トイレは、特別棟（フローリング）、本館（タイル）と形態は違うものの洗剤、用具等を工夫して美化に努める。	A	
	トイレは、特別棟（フローリング）、本館（タイル）と形態は違うものの洗剤、用具等を工夫して美化に努める。	学校周辺の空き缶・空き瓶・ゴミ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせ、奉仕の心を育成する。	B	
	環境問題を身近なもの意識し、公共心や奉仕の心を育む。	学校周辺の空き缶・空き瓶・ゴミ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせ、奉仕の心を育成する。	A	
保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。	B	【達成状況】 ○保健室運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等、十分に対応することができた。 ○各種検診は効率的に全生徒が実施できた。 ○性教育講話は生徒参加型（アクティブラーニング）の組み立てにより、分かりやすい内容であった。 ○防災避難訓練が滞りなく実施できた。また、ストーブ講習会を実施し、防火安全指導が行なえた。 ○放射線測定（毎月）・水質検査・室内環境検査等、昨年度より箇所を増やして実施することができた。 ○A I Dを1台増設した。（本館玄関） 【次年度への課題】 ○養護教諭が不在のときの保健室利用の確立。 ○購買での購入率が高くなってきている。実績を鑑みて内容、販売量等、業者と協議したい。 ○防災避難訓練において、生徒の危機感が希薄である。実施内容について検討したい。 ○本館棟の3階or4階に担架を1台設置したい。
	諸検診の効果的な実施に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	A	
	専門家による性教育を実施する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	A	
	学校生活の安全教育に努める。	水質検査および室内環境検査等を実施する。	B	
	学習環境を整備する。		B	

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

